

# 再生医療 オープンノベーションセミナー2024

令和6年 12月 9日 (月)

第一部 13:30~15:00 / 第二部 15:10~16:30  
対面形式のみ (オンライン配信は行いません。)

参加費  
無料  
※要事前申込

## 会場

Nakanoshima Qross 2階  
Crossover Lounge 夢  
(大阪市北区中之島4丁目3番51号)



アクセスはこちら▶

再生医療分野は、臨床研究が数多く進展し、これまで治療困難とされた疾患に対しても治癒の可能性が広がっています。再生医療の実現加速化に向けては、細胞培養や輸送等のサプライチェーンの効率化が求められており、再生医療に関わる分野全体としてオープンノベーションの必要性も高まっています。

再生医療の実用化をより一層進めるためには、民間企業の再生医療分野への更なる参画が必須と考えられています。そこで昨年度に引き続き本セミナーの第一部では、**再生医療用のiPS細胞の製造や実用化に向けた研究に取り組む公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA\_F)** での取組状況や研究内容、事業化に向けた課題やオープンノベーションに対する期待等についてニーズとともにご紹介いただきます。

また、第二部では、令和7年度経済産業省関連予算についてご紹介するとともに、Nakanoshima Qross入居企業による取組紹介、澤先生によるNakanoshima Qrossの取組紹介を行うほか、特別プログラムであるCiRA\_F施設説明会において塚原センター長と直接ディスカッションいただけるイベントとなっております。

## 定員

第一部 CiRA\_Fの取組・実用化ニーズ紹介 **100名**

第二部 関連予算紹介 + 入居企業取組紹介 **100名**

★第二部での**特別プログラム**として、**事前申込者 先着30名 (各社2名まで)** はCiRA\_F **施設説明会 + フリーディスカッション**にご参加いただけます。申込時に希望をご回答ください★

※ 第一部、第二部とも先着順、要事前申込。定員を超えた場合は主催側で調整することがあります。

## 対象者

iPS細胞の実用化ニーズ、共同研究テーマに関心のある事業者、再生医療・細胞関係の周辺技術を持つ事業者 等

## 申込

WEBサイト (以下URL又は右記2次元コード) よりお申込みください

[https://www.kansai.meti.go.jp/2-4bio/KRIC/20241209saiseiiryu\\_openinnovation.html](https://www.kansai.meti.go.jp/2-4bio/KRIC/20241209saiseiiryu_openinnovation.html)



- 共催 / 近畿経済産業局「関西再生医療産業コンソーシアム(KRIC)」、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA\_F)、一般財団法人未来医療推進機構
- 協力 / 公益財団法人新産業創造研究機構 (NIRO)、バイオコミュニティ関西 (BioCK)、MIRACLE SCIENCE INNOVATION株式会社

# プログラム

13:30 **開会挨拶** 近畿経済産業局長 信谷 和重

## 第1部

13:35 **京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA\_F) の紹介**

公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 広報グループ 和田 依美里

13:50 **my iPS®プロジェクト（自家iPS細胞を用いた再生医療）の概要と課題・ニーズ**

公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 研究開発センター センター長 塚原 正義

14:50 **実用化ニーズに対する提案方法のご案内**

## 第2部

15:10 **令和7年度経済産業省関連予算の紹介、Nakanoshima Qross入居企業の取組紹介**  
【特別プログラム】

**CiRA\_F (Nakanoshima Qross内使用エリア) 施設説明会+フリーディスカッション**

事前申込者 先着30名（各社2名まで、10名×3グループ、各グループ10分程度）

※経済産業省関連予算・入居企業の取組紹介と特別プログラムは並行して実施いたします。

16:05 **Nakanoshima Qrossの取組紹介**

一般財団法人未来医療推進機構 理事長 澤 芳樹

16:30 **閉会**

## 実用化ニーズ（共同研究テーマ）

- **キーワード**：培養モニタリング、細胞選抜、非破壊検査、DX化、人材育成・教育、臨床応用
- **細胞培養環境のモニタリング装置・センサー**：  
市販の自動培養装置に接続して用いるモニタリング装置・センサー。モニタリング対象はpH、溶存酸素、溶存CO<sub>2</sub>、粒度分布、グルコースなどの培地成分（モニタリング可能であれば、特定の成分に限定しなくても良い＝近赤外光やラマン分光などの利用）。  
センサーを装置内の培養液に接触して測定する場合はガンマ線などで滅菌可能であり、シングルユース製品であること。非接触の場合は、滅菌は不要であるが、エタノールなどで殺菌できることが望ましい。焦点深度が十分に深い場合は光学的観察による画像解析などでも良い。
- **iPS細胞・分化細胞の選抜・ソーティング**：  
セルソーターを用いた細胞を分離するための抗体（類似）分子の作製。細胞表面マーカーを識別可能であれば抗体以外の分子でも良い（ScFv、VHH、ペプチドなど）が、化学合成品もしくは生物由来原料基準に合致していること。また、分離可能であれば、特異性は低くても良い。コストと安全性が重要。
- **細胞品質の迅速評価・非破壊検査**：  
無菌・ウイルス否定試験・マイコプラズマ否定試験の迅速化（現状数週間→数時間程度に）、特にゲノム変異・核型異常の迅速解析技術開発、また、腫瘍化リスク（簡易試験法開発など）に関する共同研究。
- **人材育成**：  
細胞製造の自動化やDX化における人材の教育・育成・発掘、技術トレーニングやナレッジマネジメントの仕組み作り。教育機関との連携。
- **自家iPS細胞を用いた臨床応用**：自家iPS細胞由来分化細胞などを用いた臨床応用に関する共同研究。

### 【問い合わせ先】

近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 E-mail : bz1-kin-biomail@meti.go.jp